

乳幼児期の運動発達のパターンの違いと神経発達症との関係について

1. 研究の対象

2017年3月から2024年8月までに独り歩きができる前の運動発達のゆっくりさから理学療法（リハビリ）を行なった患者さん130名です。神経発達に影響を与える疾患がある場合は対象外とします。

2. 研究目的・方法

神経発達症（いわゆる発達障がい）のお子さんでは、コミュニケーション面だけでなく運動発達にも色々と問題や困難を抱えている報告が増えています。最近では特に赤ちゃんの時期の運動発達の遅れが早期のサインとして注目されており、早期発見・支援・理解の鍵になると考えられています。しかし、運動発達が遅いお子さんすべてが神経発達症であるわけではなく、どのような運動発達の遅れに注意が必要かはわかっていません。本研究では、該当する理学療法（リハビリ）を行ったお子さんの運動発達のパターンに着目し、神経発達症との関連性を明らかにすることを目的としました。

方法は電子カルテの情報によりまずは神経発達の予後を調査します（定型発達に追いつく、何らかの診断を受ける）。次に、後に神経発達症と診断された児の運動発達のパターンを①独歩獲得までに定型発達に追いついた群（キャッチアップ群）、②独歩獲得が遅れた群（遅滞群）、③独特な動きを見せた特徴的なパターンで成長した群（独特群）に分類します。そして、運動発達のパターンと各診断の有無に関して統計学的な解析を行います。

研究期間は病院長承認日から2026年3月30日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・患者背景:年齢, 周産期情報, 性別
- ・理学療法評価:各運動発達の獲得時期とその経過
- ・診断名:神経発達症の有無とその内容

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：磐田市大久保 512-3 場所：磐田市立総合病院 リハビリテーション技術科
Tel：0538-38-5000（代表） 研究責任者：一之瀬 大資